第 9 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会幹事会
議事録

１．日時：平成 24 年 5 月 31 日（木）17:00-19:50
２．場所：機械学会会議室
３．出席者：
川島一彦、小松生明、高草木明、秦信宏（秋永広幸代理）、長井寿、山本誠、横山直樹、松本洋一（東洋大学生、オブザーバー）、四戸靖郎（事務局）
５．配布資料
資料 9.1　第 8 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）
資料 9.2　CPD 協議会 ECE 委員会名簿
資料 9.3　ECE プログラム認定証の例
資料 9.4　ECE プログラム広報ポスター
資料 9.5　ナノテク製造中核人材の養成プログラムーナノエレクトロニクス
資料 9.6　平成 24 年度 NIMS イブニングセミナーー環境とエネルギー材料 ECE プログラム

６．議事
１）前回議事録（案）確認
資料 9.1 に字句の間違い 2 箇所を訂正し、議事録として承認された。

２）ECE プログラムポスター
高草木委員及び東洋大学建築学専攻の松本洋一氏から ECE プログラムの広報用ポスター2 案が紹介された後、以下の議論を行った。
（1）2 案とも大変よくできているが、案 1 の写真を案 2 の写真と入れ替え、多少表現を変更して最終案とする。
（2）今回のポスターは ECE プログラムの知名度を高めることに主眼を置くこととし、雇用者向けや ECE プログラムの実施主体向けのポスターは今後順次作って行くこととする。
（3）CPD 協議会加盟学会のほか、ECE プログラム実施機関を対象にポスターを配布できるように印刷することとする。
（4）ｐｄｆファイルを用意し、ECE プログラムに関心のある学会、機関、企業，個人等に直接メール添付で送付できるようにする。

３）ナノエレ ECE プログラム
秦氏から資料 9.5 を用いて説明された後、以下の議論を行った。
１）平成 23 年度実施状況
（1）プログラムの全課程を 3 名の受講者が修了したことを確認した。

（２）上記(1)に対してナノエレクトロニクスECEプログラム委員会内でメール審議されたようであるが、メールの送付先には中村委員長が入っているのか?
（３）ナノエレクトロニクスECEプログラムの実施にあたっては、ナノエレクトロニクスECEプログラム推進委員会を開催し、委員長を含め、委員会メンバーの意見を反映するようにすべきである。
（４）秋永幹事の意見としては、第9回幹事会終了後、ECEプログラム認定証に対する中村委員長の署名日をもってECEプログラム認定証発行日とすることを考えておられるようであるが、ナノエレクトロニクスECEプログラム推進委員会で承認されれば、産総研が修了証を受講者に出す時期と合わせた適当な日付で認定証を出すことは可能である。
（５）資料9.3に基づき、昨年度のナノエレクトロニクスECEプログラム認定証の文言を検討した結果、いくつかの訂正、修正を行うこととした。
（６）謝金、旅費の支給のため、日本工学会から派遣した2名の講師の所属、連絡先を事務局に連絡する。

２）平成24年度計画
（１）平成24年度もナノエレの応用技術に関する講義のため、2名程度の講師を日本工学会から派遣する。
（２）プログラムの実施に際しては、ナノエレクトロニクスECEプログラム推進委員会の意見を聴取する。
（３）共催の依頼状を日本工学会に送付する。

４．先端計測とナノ物質ECEプログラム
　長井幹事から資料9.6を用いて説明された後、以下の議論を行った。
１）平成23年度実施状況
（１）受講生は28名いたが、成績上位の12名にNIMS修了証を授与し、このうちさらに成績上位の5名にECEプログラム認定証を授与することが、平成24年5月15日開催の平成24年度第2回物質・材料基礎ECEプログラム推進委員会で決定されている。
（２）今後、実習をもう少し強化したい。
（３）従来のNIMSイブニングセミナー時代と比較し、若手の参加が増加した点が評価される。
（４）有力企業の現場責任者等とも相談し、将来性のある参加者の確保に努めている。
（５）物質・材料基礎ECEプログラム認定証をNIMS側で作成したいとの申し出があり、承認された。日本工学会の印は日本工学会において捺す。物質・材料基礎ECEプログラム認定証（案）につき、多少、表現の統一を図る必要がある。

２）平成24年度計画

（１）平成 24 年度には「環境とエネルギー材料 ECE プログラム」と題して平成 24 年 5 月 25 日から実施する。合計 7 回の講義、ゼミから構成されており、最終回は平成 25 年 3 月 22 日である。
（２）日本工学会に対する共催の申請書を送付する。

５．今後の ECE プログラムのあり方

今後の ECE プログラムのあり方に対する自由討議を行った。以下の意見が出された。
（１）理化学研等、有力な機関と ECE プログラムの実施に関して打ち合わせるべきではないか。ECE プログラム推進委員会の中村委員長、岸委員長等の助言を得てはどうか。
（２）日本の企業では、国内、海外のどこででも仕事できるようにすることが求められており、多様な文化を理解できる能力を強化する必要性に迫られている。大学の協力が欠かせないが、こうしたニーズに応えられるメカニズムを日本工学会にできないか?

６．その他

次回は上記５の議論を集中的に行うこととし、以下の 3 候補日から別途日程調整の上、定める。

第 1 候補：6 月 29 日(金)16:00-18:00
第 2 候補：6 月 18 日(月)16:00-18:00
第 2 候補：6 月 19 日(火)10:00-12:00